

プロジェクト課題活動実績

課題名: 玖西地域における土地利用型農業を主体とした担い手の育成

〈活動事例の要旨〉

集落の営農を維持するためには、基幹となる水稻の生産体制を守るためのシステムを構築する必要がある。このため、関係機関と連携し「水稻+ α 」で収益の見込める新たな営農モデルを策定してこれを実証し、玖西地域に適した営農を支援する体制を構築する。本年度は、人・農地プラン実践計画の推進体制整備と実践支援、営農モデル候補の選定と技術対策等を行った。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題

- 人・農地プラン実践計画の推進
- 土地利用型作物の定着

(2) 目標 (平成 28 年度)

- 多様な担い手 (人・農地プランの中心経営体) の経営面積 320 ha
- 小麦の出荷量 30 t

2 活動の内容

- (1) 玖珂の A 地区と周東の B 地区を人・農地プランの実践計画作成の重点地区に位置づけ、中心経営体の農地情報を収集するとともに、当該地区の農地情報をマップ化を進めた。
- (2) 玖西地区で推進する作目について、地区協議会で協議を重ねた。また、人・農地プランの中心経営体、水田フル活用ビジョンの担い手リスト掲載農家で認定農業者となっていない者に、農業経営改善計画の作成説明会を開催した。
- (3) 営農モデルの候補に位置づけた作目の技術的な課題を解決するため、小麦、たまねぎ、酒造好適米の実証ほ等を設置した。また新たな土地利用型作物の定着を図るため、れんこん、自然薯等の栽培実態調査を行った。

3 活動の成果

- (1) 関係機関が連携して課題解決に取り組める体制をつくるため、「玖西地区協議会」を設置した。
- (2) 玖西地区で推奨する作目について、営農モデルの候補を決定した。また経営改善計画の作成説明会を開催した結果、認定農業者が 12 人増加するとともに、認定就農者等の支援体制を強化するため、関係機関の担当者を明確化した。
- (3) 実証ほ等の設置により、品種特性や除草体系が把握できた。また新たな土地利用型作物の実態調査を行った結果、収量確保が課題であった。

- 多様な担い手の経営面積 294ha、小麦の出荷量 13 t

4 今後の普及活動に向けて

農地情報マップを活用して担い手農家等との話し合いを行う計画である。米価が低迷する中、ほ場整備田では「水稻+小麦+大豆」を基本とした 2 年 3 作の輪作体系が農業所得の確保の基本であり、収益性の高い作物であるとの実証が必要である。営農モデルの候補については、実際に当該作目を経営する担い手農家等の情報を踏まえて検証し、28 年度末までには玖西地区で誘導する営農モデルに仕上げる。



玖西地域幹事会での協議



大規模農家のたまねぎ機械移植作業支援
(H26.10.31 周東町田尻)